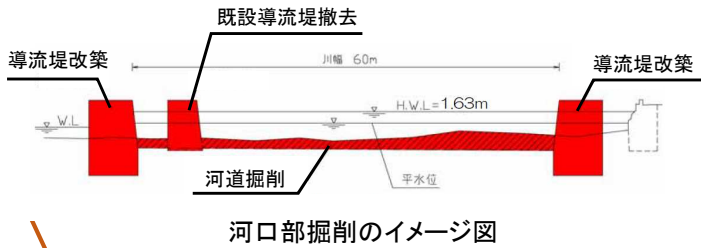


各機関の取組み(予定)について

令和3年2月24日

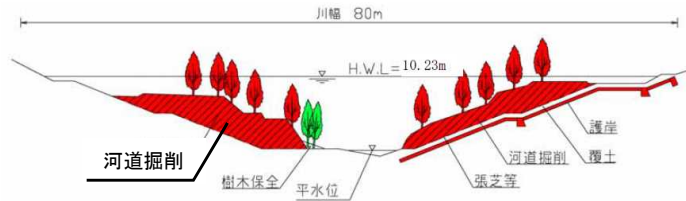


河口部掘削のイメージ図

※留萌川河川整備計画より



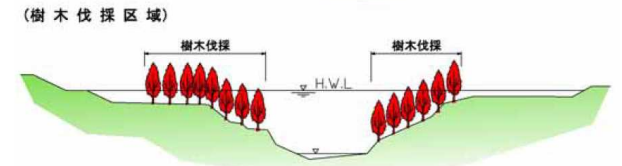
河口部掘削のイメージ図



※留萌川河川整備計画より



河道掘削等(樹木伐採区間)のイメージ図



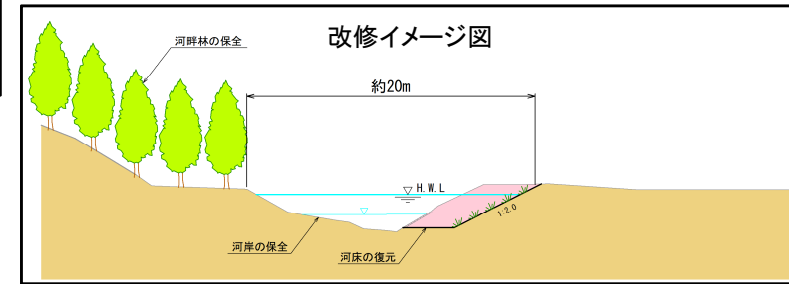
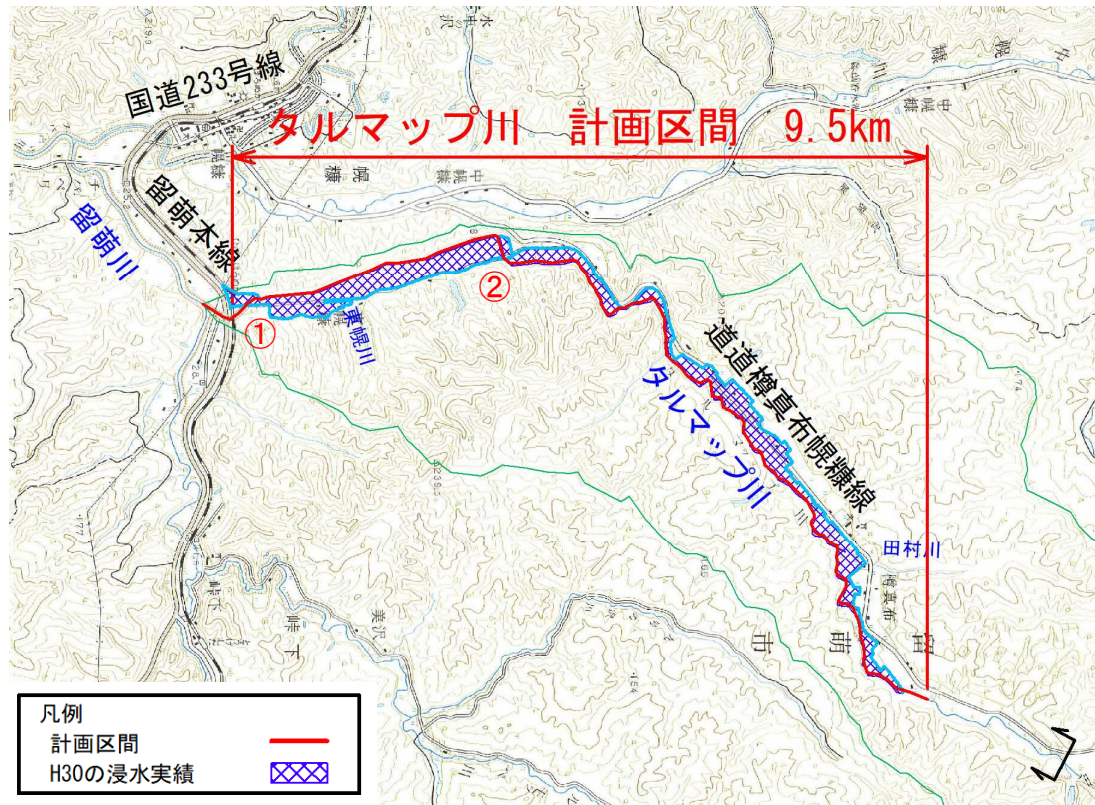
※留萌川河川整備計画より



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

留萌ダムにおける事前放流等の実施・体制構築等

平成30年7月の豪雨により浸水被害が発生したことからL=9.5km区間の河道掘削等をおこない、浸水被害の軽減を図る。



整備前



整備後



①SP400付近の浸水状況

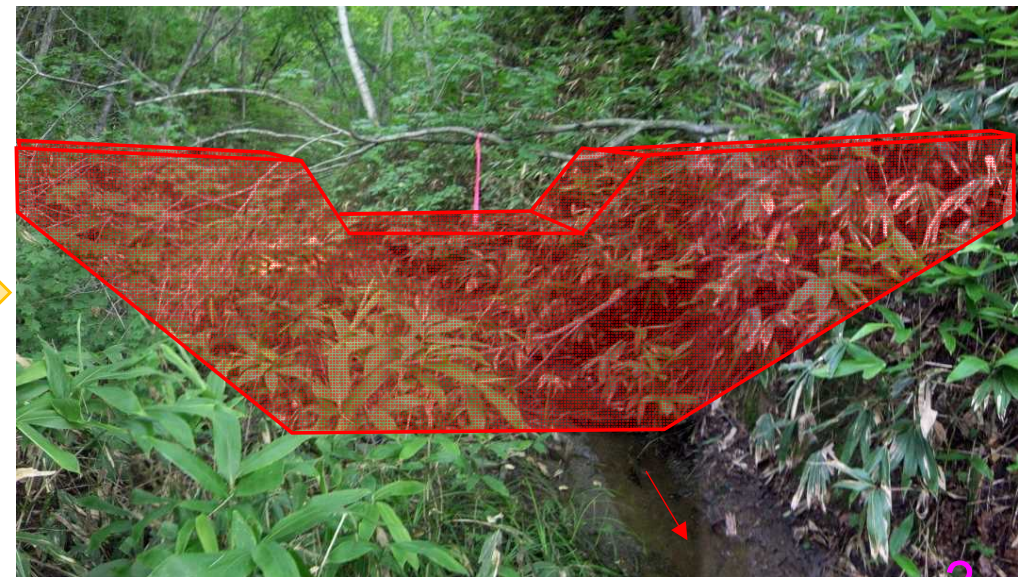


②SP3000付近(樽真布橋下流)の浸水状況

降雨等に伴って発生する崖崩れに対し急傾斜地崩壊防止施設を設置し斜面の安定を図ることによって河川への土砂流出を防止する。



大雨によって発生する土石流を砂防堰堤で捕捉・抑制し、下流河川への土砂流出の防止や洪水氾濫の軽減を図る。



農地防災ダムの機能保全 (樽真布ダム・中幌ダム)

農業用排水施設及び農用地整備等 (道営農地整備事業)



- ・機能保全計画に基づく最適な保全対策の実施
[道営農村地域防災減災事業 樽真布第2地区 H30-R5]



- ・水田大区画化の実施
- ・併せて畦畔かさ上げ、農業用排水路の整備
(水田地域の降雨時の貯留・排水能力の確保)
[道営農地整備事業 るもい地区 H30-R6]

農地防災ダムの機能保全（樽真布ダム・中幌ダム）

目的:長寿命化により農地防災ダム機能の維持保全を図る。

<ダム全景 樽真布ダム>



- ・造成事業:道営防災ダム事業(S47-H10)
- ・施設管理者:留萌市 農林水産課
- ・堤高 24.0m 堤長 333m 有効貯水量 921m³
- ・機能保全計画 H29年度策定

<ダム貯水状況(H30.7.4) 中幌ダム>



- ・造成事業:道営防災ダム事業(S46-H2)
- ・施設管理者:留萌市 農林水産課
- ・堤高 25.8m 堤長 123m 有効貯水量2615m³
- ・機能保全計画 H30年度策定

【治山対策】※治山施設等の整備

(写真は代表的な取り組み事例です)

治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果

・局地的豪雨により溪岸浸食の発生・溪畔林が傾倒し、下流への土砂流出・流木被害を与える恐れがある。



流木危険木を除去するとともに、安定した溪床勾配へ導くことで山脚を固定して、縦横浸食の拡大並びに不安定土砂の移動防止を図る。



【治山ダム(流木捕捉式・床固工)】

【森林整備】※植栽・間伐などの森林整備

(写真は代表的な取り組み事例です)

森林整備による浸透能の向上効果

・樹木の過密化により樹幹が密接し、林床植生が衰退。



本数調整伐により光環境を改善し、森林機能の早期回復を図る。



【本数調整伐(間伐)】

・台風による風倒被害が発生し、無立木地化による森林機能の低下。



被害木を除去するとともに、無立木地では植栽により森林機能の早期回復を図る。



【被害木整理・植栽工】

【森林整備】※間伐などの森林整備

整備前(間伐)



植栽木の成長に伴い、植栽木間の競争が生じていることから、間伐により光環境を改善し、森林機能の回復を図る。



整備後(間伐)



【山地災害の迅速な対応】

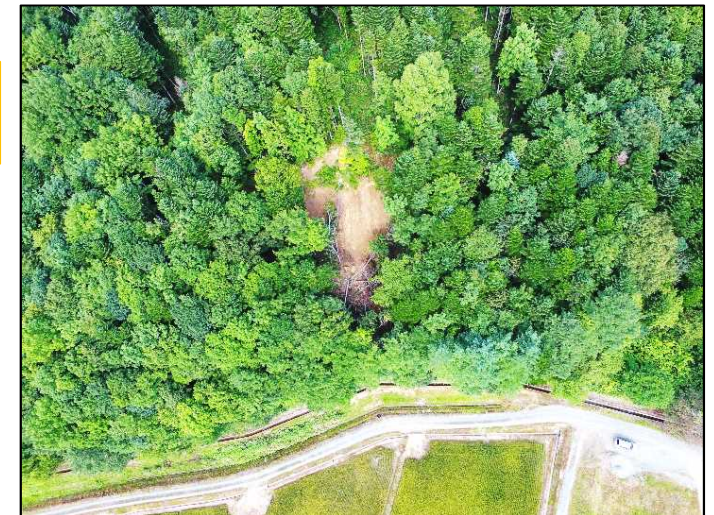
ドローンの活用



ドローンを活用することにより、広範囲の被害状況を俯瞰して把握することが可能になる。



ドローンの活用



(写真は代表的な取り組みです)

関係機関で連携した避難場所等の整備検討

避難場所及び避難経路等の整備協議(留萌川中・上流部域)

災害対応における課題



◆留萌川中・上流部域(藤山・幌糠・峠下)については、洪水浸水想定区域も広く、主要な避難経路となる、国道233号が浸水ハザードエリアとなり、状況によっては避難経路として使用不能となる可能性があることから、住民の避難路及び避難場所について、検討協議が必要

具体的な検討施策(一例)



◆留萌川中・上流部域住民の避難場所及び避難経路を検討協議し、具体的な避難方法・避難場所について整備・確保

深川～留萌自動車道の活用

◆被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



■関係機関による流域タイムラインの作成 ■マイタイムラインの作成普及

○流域タイムライン(防災行動計画)策定への取組み



留萌市防災会議での協議



○マイタイムラインの作成普及

マイタイムライン作成シート

マイタイムライン作成シートは、防災意識の向上と、災害発生時の適切な行動を促すためのツールです。

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
警戒情報	早期注意情報	大雨注意情報 氾濫注意情報 洪水注意情報	大雨警戒情報 氾濫警戒情報 洪水警戒情報	避難勧告(緊急) (避難準備)	避難発生情報
避難に注意する必要があります	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備
避難準備と対応しています	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備
ポイントごとに避難する方	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備	避難準備

わたしの計画

避難する場所と避難経路を事前に決めておく。
避難する場所と避難経路を事前に決めておく。
避難する場所と避難経路を事前に決めておく。

マイタイムライン作成ワークショップ



◆被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



■自主防災組織の充実・強化

○町内会自主防災組織の充実・活動活性化



AEDの取扱い



要配慮者避難支援



応急担架搬送

○住民参加型水防訓練の実施



消防団による水防工法訓練



積み土のう工法

◆被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



■要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進



<これまでの主な取組>

- ① 避難確保計画説明会を通じて計画の作成及び避難訓練の実施義務化について情報提供
- ② 洪水ハザードマップについて、要配慮者利用施設へ周知
- ③ 避難確保計画作成に関する問い合わせに対し計画作成及び避難訓練実施を改めて依頼

<2021年度以降の取組>

- ① 市から、改めて避難確保計画の策定と訓練の実施について、要配慮者利用施設に対し依頼
- ② 計画のひな型や作成の手引きについて情報提供
- ③ 未作成の施設等に対し、個別助言等の実施
- ④ 訓練実施要領について、他施設、他市の事例紹介
- ⑤ 出張説明会等の積極的な実施

課題・対策

- 福祉・教育・医療部局等との緊密な連携及び情報交換
- 未作成施設に対し、「計画ひな型」などの積極的な助言及び情報提供
- 避難訓練未実施施設に対し、訓練要領の積極的な助言と実施について働きかけ

◆被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



■防災情報伝達手段の整備検討、充実

○コミュニティFM放送を活用した割込み装置の導入・防災情報伝達手段の多様化

新たな個別受信機「緊急告知ラジオ」の配布開始

現行防災ラジオ



新規導入防災ラジオ



エフエムもえる放送への割込み

携帯電話を活用した防災情報のプッシュ配信

○ヤフー防災専用アプリ活用した避難情報・防災関連情報のプッシュ配信の開始

ヤフー防災情報アプリ



防災速報



○「エフエムもえる」の放送を活用した避難情報・防災関連情報のプッシュ配信の検討

FM放送アプリ「レディモ」



スマートフォンで
エフエムもえるが聴ける!

